

## 「上迫の未来を考える会」からの提案

有志による地域活性ボランティア団体を上迫区で公認し、活動協力者を募る。

(地域での諸活動に携わる団体)

**背景** 人口減少・少子高齢化の中で、コミュニティ存続のための課題を探る。

- ・地域の活動を担っていた人や組織が減少・消滅していく中で、個々の家庭での生活対応能力は低下し、コミュニティ維持のためにやらなければならない作業は増大していく。
- ・従来地域を支えてきた既存の組織や役割に頼った活動には限界がある。

↓

- ・先達が守ってこられた地域を、今までのなされていることを…  
次世代のために負担感なく、今できるものができるところを考えやってみよう。

↓

- ・こうした活動が日常的に持続できる環境をつくる。  
少子高齢化のなかでも、明るく元気な上迫（誰もが安心して暮らせる）。  
具体的には、有志による団体を立ち上げて、活動の輪を広げていく。  
とりあえずは、活動内容を絞って活動し、活動内容を区民に周知していく。

- ・なぜ区の公認が必要か

区内に向けては、住民の生活に関わることは区民の理解と一定の共通認識が得られなければ活動が困難な場合が多い。対外的には、行政などとの連携は区長などを通じた手続が必要な場合が多い。

- ・なぜ公的な役職としないのか

役職に付随する義務感や負担感をなくし、あくまでも自主的な活動とする。人手不足の解消もめざす。年度を越えた継続的活動を行う必要があるため、単年度任期役職に適さない。また、役職に捉われない柔軟な活動をめざす。

**方向性** 人材の活用（役員じゃないけど、こんなことならできるよという人）

- ・役割や義務による活動ではなく、自主的、ボランティア的活動が生かされる環境を地域住民で創っていく。  
(その年度の役員や既存組織による活動だけではなく、それ等を補完するとともに、独自性を持った年度を越えて持続可能かつ緩やかで柔軟性のある活動。)

※既にこうした活動を実施している人たちも存在している。

「勝手にやっている。」

↓住民共通の認識、地域で承認（地域公認ボランティア団体の設立）

「ありがとう。」「私も…」へ

**基本** 声かけ・気遣いから始めて、活動を広げていく。(まずは、有志で声をかけ合って活動を始める。)

- ・ポジティブアクション。要望に対して答えるという姿勢ではない。
- ・無理のない範囲で、少しずつ……ふれあいを大切に。活動への参加や入会・脱会は自由。
- ・将来的には…環境美化、防災、催し・イベント支援、交流・憩いの場づくり、互助・助け合いなど。  
強要をしない。する側もしてもら側も、活動のあり方・受け入れ等あくまでも対象となる人の意思を尊重する。構成員も原則組織活動に縛られない（緩やかな結合と活動）。
- ・地域住民からの期待には区役員等との連携も重視して対応を考える。

## 初年度の活動

- ・ボランティア活動として上迫内で年齢・性別を問わず趣旨に賛同する人を募集する。
- ・区の役員や〇〇員などとは関係のない団体とする。
- ・自分のできることをできる範囲で活動する。
- ・初年度は、特に交流を重視。

## 初年度活動の重点

- ・あれもこれも、色々考えられるが…初年度はひとつに絞って取り組んでみる。  
「考える会」では、『防災活動支援』に取り組む重要性が話題に上がりました。
- ・例  
非常時にひとりの漏れもなく、住民の安全確保に地域で対応するためには何が必要か。  
平時の備えと非常時およびその後の対応。  
複数の系統。区長・班長等の不在時、行政の機能麻痺などの時の連絡・対処・コントロール。  
シミュレーションとトレーニング。  
行政との連携、自分たちからできること。非常時に行政に対して地域から状況を示せる。  
(何をしてくれるのかではなく、今こうしている、この先このようにしたいと言える。)

## 『補足』

### (1) 見通し(課題・問題点)

近い将来、独居家庭や空き家の増加が見込まれる。それに伴い、以下のような問題が発生する。

- 老老介護
- 買い物等の日常生活の困難
- 環境美化の維持困難
- 災害時など非常時の対応困難
- 役員のなり手不足、役員構成の困難
- 行事・催事の実施困難
- 既存組織の崩壊・消滅
- 地域活動の維持困難あるいは負担の増大
- 人間関係の薄れ

### (2) 目指したい事

- 全ての住民が、一人ででも安心して暮らせるコミュニティづくり
- サイレント・マイノリティが見捨てられることのない地域
- 帰属意識がもてる環境
- 安心して死んでいける地域

### (3) 考えられる具体的活動の事例

考えられることを網羅的にあげたもので、これら全てに対応するというわけではない。  
重点的・優先的に取り組む必要があると思われるもの、取組み可能なものから少しずつ実行に移す手立てを考える。

## 防災活動支援

- ・ 自警活動、災害予防
- ・ 災害時のための準備
  - 啓発、確認、ストック、独自ハザードマップ
  - 救援体制（発生時期・時間ごとや常時在住者・勤務者等ごとのシミュレーション）
  - Ex. 年1回「上迫防災の日」（ふれあい大会とのコラボ：役員とのタイアップ）
    - 非常食のストックとそれの入れ替え食事会。住まい・救護の確認、啓発。
    - 高齢者、障害者等への配慮体制を地域として確立・確認
- ・ 学びの場（ふれあい委員等とのタイアップ）
  - Ex. 新潟県中越地震の対応に学ぶ
  - 能登地震支援活動に携わった役場職員から学ぶ

## 地域美化・環境維持

- ・ 道路・河川
  - 既存組織や現在活動してくれている人たちとの連携のあり方
- ・ 個人所有地で美化困難家屋周り
- ・ 休耕田畑への対応
- ・ 空き地・空き家問題への対応ビジョン

## 交流・憩いの場づくり

- ・ 行事の下支え
  - 里帰りなど地域外住民も参加できる活動
- ・ カフェなどのお手伝い
- ・ にぎわい創り（将来的には、空き家などの活用も考える）
  - 模擬の「居酒屋」「カフェ」、「料理教室」、「子どもの集いの場」「図書館」など
- ・ コンサートの開催

## 互助・助け合い

- ・ 声かけから。無理強いはしない。会話の場づくり。
  - 話し相手、買い物、通院、精米、草刈り、ゴミ処分、後片付けなど
- ・ 通学ボランティアや、子ども会活動の活性化

## その他

- ・ 取りまとめ役や代表の選出
- ・ 会員のつながりと緩やかで自主的な活動の在り方を共通認識
- ・ 広報の発行（地域住民に活動を周知）

（文責：正親肇）